



受賞者のみなさんと主催者・後援者の役員

「私とみんな」

小学生新聞コンクール表彰式を開催

全国 331 校・3040 点に上った応募作品。
最優秀作品賞 1 点は駅ポスターに。

「新聞」づくりを通じて子どもたちに鉄道や民鉄に対して関心と理解を深めてもらうことを目的に開催されている『「私とみんな」小学生新聞コンクール』。第3回目を迎えた昨年は、応募作品も全国 331 校・3040 点に上り、1月9日（土）には、厳正な審査を経て選ばれた個人賞・学校賞の表彰式が開催された。



表彰式風景



全国小学校社会科研究協議会の久保田会長



主催者挨拶をする上條清文会長

最優秀作品賞

日本民営鉄道協会 会長賞



「くらしと鉄道新聞 すべての人にやさしい
“ユニバーサル・ステーション”」
各務原市立八木山小学校 石原蔵人

僕の祖父は車椅子に乗っています。祖父はどんな気持ちで車椅子に乗っているんだろう。そんな思いから、この新聞づくりは始まりました。車椅子を借りて、実際に電車に乗ってみました。この体験を通じて、僕は、今まで気づかなかった車椅子の人の苦労や大変さを知ることができました。そして、普段何気なく利用している駅や電車が、さまざまな工夫でバリアフリーになっていることが、よく分かりました。特に、電車の乗り降りにフラップを用意してくださったり、車椅子を押してくださった駅員さんのやさしさには本当に感謝しました。ひとりではできないことをやさしく支えてくださる、支え合うことの大切さを学びました。この新聞づくりを通して知ったこと、学んだことを活かし、僕も駅で困っている人を見かけたら何かできることはないかを考え、困っている人にやさしく接して僕にもできるバリアフリーを実行してみたいと思います。

全 国の子どもたちに鉄道をもっとよく知り、鉄道をもっと好きになってもらいたい——そんな願いから企画された『「私とみんな」小学生新聞コンクール』。全国小学校社会科研究協議会の後援を得て、平成19年に開始。第3回目を迎えた昨年のコンクールには、全国331の小学校が参加、応募作品数は第2回の3倍を超える3040点（3156人）に上った。

第3回のテーマは「くらしと鉄道」。毎日の生活のなかで鉄道や駅について興味を持ったことや疑問に感じたことを題材に、自分で調べ、新聞形式にまとめてもらった。「バリアフリー」や「エコ」「マナー」などをテーマに、自分の考えや思いをまとめた力作が目立つ。時間をかけた下調べや取材、文章、写真やイラストなど工夫を凝らした紙面構成——その内容の濃さと丁寧なつくり方に、子どもたちの努力と熱意がうかがわれる作品が揃った。これら応募作品の中から、日本民営鉄道協会加盟各社ならびに全国小学校社会科研究協議会の審査委員による厳正な審査を経て、受賞作品を決定。個人賞の最優秀作品賞1作品・優秀作品賞5作品・審査員特別賞7作品・佳作25作品、学校賞の最優秀学校賞1校・優秀学校賞2校・審査員特別賞2校が選ばれた。

1月9日（土）、東京會館東商スカイルームにて開催された表彰式には、佳作受賞者を除く受賞者13名、受賞校5校、また、全国小学校社会科研究協

優秀作品賞

全国小学校社会科研究協議会 会長賞

「民鉄くらし応援新聞」
近畿大学附属小学校 川崎奈津子



私は近鉄奈良線に乗って通学しています。私や私の家族の毎日のくらしの中で、鉄道・駅はなくてはならない存在です。そこで私は、近鉄がどのように私たちのくらしに関わっているのか調べてみることにしました。インターネットを使ったり、実際に駅に行ってみたり聞いたりして、新聞にまとめました。交通手段のひとつとしてだけではなく、いろんな便利なサービスを提供してもらっていることが分かりました。一生懸命、工夫しながらまとめたので、賞をいただいてとても嬉しいです。

「心にみんてつ 晴流新聞」
関市立瀬尻小学校 尾関晴也



僕の町には5年前まで名鉄美濃町線が走っていました。僕も乗ったことがあります。学校の先生方に美濃町線の思い出を取材しました。みんな電車があった方が良かったと話してくださいました。廃線になったのはとても残念だけど、鉄道はみんなの心に思い出を残してくれたり夢を与えてくれる、くらしにかかせない乗り物だと思いました。みんなでもっと鉄道を大切にしたいと思います。電車が大好きなのでやってみようと思った新聞づくりですが、こんなすごい賞がもらえて嬉しいです。

「みなみ新聞」 ひたちなか市立那珂湊第三小学校 須藤みなみ

那珂湊駅に行ったとき、駅員さんから、こういうコンクールがあるけどやってみませんかって声をかけていただきました。面白そうだったので、早速、ひたちなか海浜鉄道の湊線について調べてみることにしました。インターネットで調べたり、駅員さんにインタビューして記事をまとめました。お出かけする時いつも乗っている湊線ですが、その長い歴史や駅員さんのお仕事の内容など、初めて知ったことがたくさんありました。たくさんの人に湊線を紹介したいと思ってつくった新聞です。



日本民営鉄道協会 広報委員長賞

鉄道ファンの叔父にすすめられて参加しました。それまで、鉄道について勉強したり調べたりしたことがなかったので、とても楽しかったです。鉄道が環境にやさしく安全性にも非常に優れた乗り物であるということ、分かりやすくまとめたと思いました。新聞をつくる前に、マス目いっぱい大きくはっきりと字を書く練習をしたり、本物の新聞をよく見て、見出しの配置や書体、段の使い方などを研究しました。時間をかけて丁寧に作ったので、賞をいただけて本当に嬉しいです。

「鉄道発見号」
四日市市立西橋北小学校
湯前美里衣



「信州民鉄もりあげ隊新聞」
信州大学教育学部附属長野小学校
厚木那奈美



第1回の新聞コンクールでは、兄が受賞しました。「ローカル線の未来」というタイトルで、上田電鉄存続の取り組みを紹介したものです。同じように今、長野電鉄の屋代線が廃線の危機に直面していて、なんとか屋代線をもりあげたいと思って、支援を呼びかける新聞をつくりました。兄の新聞の続きとして、乗る人がだんだん増えてもりあがっている上田電鉄についても紹介しました。文章をまとめるのが苦手なので大変でしたが、兄妹そろって入賞することができて大喜びしています。

最優秀作品賞・優秀作品賞・審査員特別賞を受賞した13作品は、日本民営鉄道協会ホームページ内サイト『みんてつ』キッズで紹介しています。 <http://kids.mintetsu.or.jp/>

議会の役員、日本民営鉄道協会の役員、児童の家族など、約80名が参加した。

「みんなの鉄道を大切に」

表彰式では、日本民営鉄道協会の上條清文会長（東京急行電鉄株式会社社会長）が主催者挨拶に立ち、「たくさん作品が寄せられ、多くの小学生の皆さんに鉄道に関心をもっていただき、たいへん嬉しく思っている。力作が揃った中から選ばれた受賞作品は、非常にレベルの高い優秀な素晴らしい作品ばかり」と、子どもたちに感謝を述べ、その作品の出来栄に賛辞を贈った。

また、全国小学校社会科研究協議会の久保田福美会長は「自分の目と耳と足を使ってつくり上げた作品は素晴らしい。コンクールは、私たちのくらしと鉄道について考えるよい機会となったが、どうぞこれからもみんなの鉄道を、みんなで大切にしていっていただきたい」と、お祝いの言葉を述べた。

最優秀作品賞はポスター化して3月末日まで、日本民営鉄道協会加盟71社の駅に掲出している。また、「第4回『私とみんてつ』小学生新聞コンクール」は、今年も7月から実施する予定だ。



第3回最優秀作品ポスター